

Sinfonia

シンフォニア



ヴァイオリン: 辻 彩奈

©Enrique Pardo

スイス・ロマンダ管弦楽団

指揮: ジョナサン・ノット

ORCHESTRE DE LA
SUISSE
ROMANDE



大和証券グループ Presents

ライプツィヒ・ ゲヴァントハウス管弦楽団

指揮: アンドリス・ネルソンス



バリトン: トーマス・ハンブソン



Close
up

2019年 豪華コンサートラインナップ

スヴェトラナ・ザハーロワ&ワディム・レーピン「瀕死の白鳥」“パ・ド・ドウ for Toes and Fingers”

<名曲シリーズ>大阪フィル×ザ・シンフォニーホール ソワレ・シンフォニー

大阪交響楽団

外山雄三が指揮する2月の公演は、作曲家でもある外山の新作交響曲がついにザ・シンフォニーホールで世界初演される。87歳にしてなお躍動するタクトと交響曲の全貌をじっくり楽しんでほしい。また、シーズン最後は沼尻竜典が大阪交響楽団の定期に初登場するので、お見逃しなく。



第226回定期演奏会
2019.2/28(木) 7:00PM

発売中

[指揮]外山雄三

[管弦楽]大阪交響楽団

モーツァルト: 歌劇「後宮からの逃走」序曲/ベートーヴェン: 交響曲 第1番 八長調 op.21/外山雄三: 交響曲(世界初演)

第227回定期演奏会
2019.3/15(金) 7:00PM

発売中

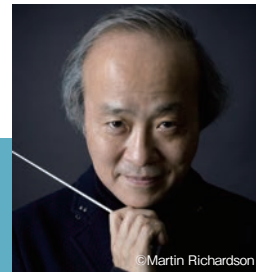
[指揮]沼尻竜典

ハイドン: 交響曲 第101番 二長調 Hob.I-101「時計」/ブルッフ: 交響曲 第3番 水長調 op.51

S 6,000円 A 5,000円 B 3,500円 C 2,500円 D 1,000円
オルガン 2,000円 (税込) ※Dは楽団WEB限定
[お問合せ]公益社団法人 大阪交響楽団 072-226-5522

大阪フィルハーモニー交響楽団

2019年、大阪フィルのチクルス公演がザ・シンフォニーホールに登場。4回に渡り『ブラームス・チクルス』がスタートする。このチクルスの特徴は、毎回交響曲に加えて、味わい深い合唱曲がそれぞれ同時に楽しめる。4回を通して、ブラームス作品の軌跡を堪能してほしい。



ブラームス・チクルス
-ロマン派の豊穡-

[指揮]尾高忠明

[独唱]清水華澄(アルト)★Ⅱのみ出演

[合唱]大阪フィルハーモニー合唱団

I 2019.5/11(土) 2:00PM

ハイドンの主題による変奏曲 op.56a/埋葬の歌 op.13/交響曲 第1番 八短調 op.68

II 2019.7/13(土) 2:00PM

アルト・ラプソディー op.53★/運命の歌 op.54/交響曲 第2番 二長調 op.73

III 2019.9/4(水) 7:00PM

悲劇的序曲 op.81/哀悼の歌 op.82/交響曲 第3番 へ長調 op.90

IV 2019.11/20(水) 7:00PM

大学祝典序曲 op.80/運命の女神の歌 op.89/交響曲 第4番 小短調 op.98

[全4回セット券]A 19,000円 B 14,000円(税込) 発売中

※ザ・シンフォニー チケットセンターでの販売はありません。

[各1回券]A 6,000円 B 4,500円 C 3,000円(税込)

Sinfonia先行予約:I 1/24(木)

一般発売:I 1/29/II 4/23 III 5/21 IV 7/30

※ザ・シンフォニー チケットセンターでは、I 1/30/II 4/24 III 5/22 IV 7/31

[お問合せ]大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

関西フィルハーモニー管弦楽団

2月の定期は、初来日を果たすヤニフ・セガルと関西フィル初登場となるベルリン・フィル首席奏者、ガボール・タルケヴィが登場! 3月は、2011年より、年に一度進められていたブルックナー交響曲全曲チクルスが、いよいよ《第9番》を迎える。円熟味あふれる飯守のタクトに注目が集まる。



第298回定期演奏会
2019.2/8(金) 7:00PM

発売中

[指揮]ヤニフ・セガル [トランペット]ガボール・タルケヴィ

ストラヴィンスキー: 葬送の歌 op.5/ハイドン: トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob.VIIe-1/アルチュニアン: トランペット協奏曲 変イ長調/ストラヴィンスキー: 「火の鳥」組曲(1919年版)

第299回定期演奏会
2019.3/31(日) 2:00PM

発売中

[指揮]飯守泰次郎 [ヴァイオリン]ヴェロニカ・エーベルレ

モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K.218/ブルックナー: 交響曲 第9番 二短調(ノヴァーク版を予定)

[チケット]S 6,000円 A 4,500円 B 3,000円 C 2,000円 (税込)
[お問合せ]公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6577-1381

日本センチュリー交響楽団

飯森がバイエルン州立劇場で研鑽を積んでいた頃のレパートリーだったR.シュトラウス。首席指揮者就任以来、温めてきたメタモルフォーゼンは必聴だ。シーズンラストには、カラヤンが認めたミシェル・タバシュニクが登場。センチュリーの十八番であるバレエ組曲「火の鳥」に注目を。



第232回定期演奏会
2019.2/14(木) 7:00PM

発売中

[指揮]飯森範親 [オーボエ]ラモン・オルテガ・ケロ

R.シュトラウス: メタモルフォーゼン(23の独奏弦楽器のための習作) TrV 290/オーボエ協奏曲 二長調/歌劇「インテルメッツォ」より「4つの交響的間奏曲」op.72, TrV 246a

第233回定期演奏会
2019.3/7(木) 7:00PM

発売中

[指揮]ミシェル・タバシュニク [ヴァイオリン]アレクサンドラ・スム

ラロ: スペイン交響曲 op.21/モーツァルト: 交響曲 第36番 八長調「リンツ」K.425/ストラヴィンスキー: バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

[チケット]A 6,000円 B 4,500円 C 3,500円 D 1,500円 (税込)
[お問合せ]センチュリー・チケットサービス 06-6868-0591

速報!!

1月発売の注目のコンサート!!

速報!!

音楽大国イタリアから待望の来日!若き俊才たちによる豊かなサウンドが響く!

イタリア交響楽団



指揮: チョン・ミン

ピアノ: イヴァン・クルバン

[指揮] チョン・ミン
[ピアノ] イヴァン・クルバン
[管弦楽] イタリア交響楽団

モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」序曲
ベートーヴェン: ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」
ベートーヴェン: 交響曲 第7番 イ長調 op.92

2019.6/6 (木) 7:00PM
S 10,000円 A 8,000円 B 6,000円 C 4,000円 (税込)
[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[お問合せ] 日本アーティストチケットセンター 03-5305-4545
[主催] 日本アーティスト/ザ・シンフォニーホール

先行予約: 1/24 (木) 一般発売: 1/27 (日)

古来から歌うことや旋律を作ることを得意とし、音階や速度表記にも母国語が使われるなど、西洋音楽史に大きく貢献してきたイタリア。この音楽大国の文化省の支援の下、1960年に創設されたイタリア交響楽団が注目の来日公演を行う。

指揮を務めるのは、巨匠チョン・ミン。幼少期からピアノ、ヴァイオリン、コントラバスなども学び、2007年に指揮者デビューをした若き俊才だ。彼はミラノ・スカラ座やマリインスキー劇場で大成功を収めるなどオペラを得意とすることでも知られ、当公演の幕開けには、モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」序曲をセレクト。トリには、父の十八番のひとつで、ワーグナーが「舞踏の聖化」と賞したベートーヴェンの交響曲第7番を配置し、親譲りのしなやかで知的なタクトと、同響の豊かな歌謡性を存分にいかした快演を聴かせてくれることだろう。

同響はまた、権威あるブゾーニ国際ピアノコンクールのサポートも行っており、今回はその縁で、17年度の優勝者イヴァン・クルバンがソロを弾くベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」も披露。若い指揮者、若いオケ、そして若いソリストが形作る秀麗で瑞々しいトライアングルを期待しよう!

(文 渡辺謙太郎)

速報!!

6年目に突入の人気コンサートシリーズ。新シーズンのラインナップが決定!

〈名曲シリーズ〉大阪フィル×ザ・シンフォニーホール ソワレ・シンフォニー Vol.13 & Vol.14



指揮: 角田鋼亮

ピアノ: 田部京子

指揮: 大友直人

ヴァイオリン: 服部百音

Vol.13 2019.5/28 (火) 7:00PM ※PM6:50より角田鋼亮によるプレトーク
[指揮] 角田鋼亮 [ピアノ] 田部京子
ロッシーニ: 歌劇「セネレントラ(シンデレラ)」序曲 / モーツァルト: ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467 / ベートーヴェン: 交響曲 第7番 イ長調 op.92
A 5,000円 B 3,000円 (税込)

先行予約: 1/24 (木) 一般発売: 2/6 (水)

※大阪フィル会員先行は1/22 (火) ※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは2/5 (火) より一般発売

Vol.14 2019.10/18 (金) 7:00PM ※PM6:50より大友直人によるプレトーク
[指揮] 大友直人 [ヴァイオリン] 服部百音
エルガー: 弦楽セレナード 短調 op.20 / シベリウス: ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47 / チャイコフスキー: 3大バレエ音楽 ハイライト
A 5,000円 B 3,000円 (税込)

先行予約: 5/30 (木) 一般発売: 6/5 (水)

※大阪フィル会員先行は5/28 (火) ※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは6/4 (火) より一般発売

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

[主催] 公益社団法人 大阪フィルハーモニー協会 / ザ・シンフォニーホール

大阪フィルとザ・シンフォニーホールの強力タッグで名曲をお贈りする「ソワレ・シンフォニー」。ソワレⅡ夜公演に華麗なる管弦楽の調べに酔いしれるこの人気シリーズが、2019年も2度に渡って開催される。

5月の「Vol.13」を指揮するのは、2016年から同フィルの指揮者を務める角田鋼亮。自身の留学先でもあったドイツの偉大な作曲家ベートーヴェンの交響曲第7番をメインに据え、名手・田部京子をソリストに迎えるモーツァルトのピアノ協奏曲第21番など、王道プログラムで堂々と直球勝負を挑む。角田持ち前の情熱的で切れ味鋭いタクトにぴったりの好選曲と言えるだろう。

続く10月の「Vol.14」は、名匠・大友直人の指揮で、エルガー「弦楽セレナード」や、チャイコフスキー「3大バレエ音楽ハイライト」などを演奏。こちらも彼の柔軟で色彩豊かな音楽性にふさわしい名プログラムだ。また、ヴィエニャフスキ国際コンクール・ジュニア部門で史上最年少優勝を果たした期待の若手ヴァイオリニスト・服部百音がソロを弾くシベリウスの協奏曲も演奏するので、期待はますます高まる。

なお、お得な2公演セット券、Aセット8,000円、Bセット4,000円は、大阪フィル・チケットセンターで販売されるので、チェックしてほしい。

(文 渡辺謙太郎)



創立275年を超え、今なお進化する
世界最古のシンフォニーオーケストラ

ライブツィヒ・ ゲヴァントハウス管弦楽団

Gewandhausorchester Leipzig

指揮: アンドリス・ネルソンス(カペルマイスター)
Andris Nelsons, Gewandhauskapellmeister

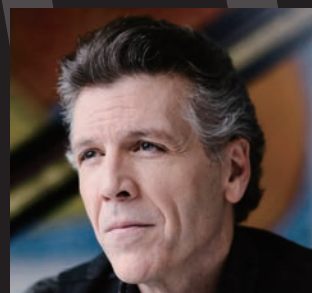
©Marco Borggreve

ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の25回目となる日本ツアーで、彼らと、新しくカペルマイスターとなった私の演奏を日本の方々に初披露できることは大変に光栄です。

ザ・シンフォニーホールで私たちがお届けするのは、ピョートル・チャイコフスキーとグスタフ・マーラーの音楽です。2人はいずれも、私自身が殊のほか愛着を抱いている作曲家であるうえに、ゲヴァントハウス管とも関係の深い作曲家です。かつてチャイコフスキーもマーラーも、このオーケストラを指揮しました。とりわけマーラーは若かりし頃に2年間、ライブツィヒ歌劇場の楽長を務めています。ゲヴァントハウス管は当時から今日に至るまで、この歌劇場の演奏を任されてきました。

1961年に初来日が実現して以来、ゲヴァントハウス管は、日本の聴衆から常に歓迎され、深い洞察力和情熱を寄せていただきました。極めて情感豊かなプログラムを携えた私たちの演奏が、これまでと同様に皆さまを熱狂させることを、楽団一同、心から願っております！

ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
カペルマイスター(楽長)
アンドリス・ネルソンス



バリトン: トーマス・ハンブソン
Thomas Hampson, Bariton

注目の新コンビが早くも

続いて6月にはネルソンス指揮/ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管。こちらは1743年に創設され、メンデルスゾーンやニキシュ等に育まれた歴史的な名門。重心の低いドイツ伝統のサウンドが持ち味だが、前任のシャイーが機能性を強化し、近年は驚くほど光輝な演奏を聴かせている。18年カペルマイスターに就任したネルソンスは、30代からベルリン&ウィーン・フィル両雄の信頼を獲得し、14年から音楽監督を務めるポストン響で高密度の名演を繰り広げている超実力者。当楽団とのブルックナーのしなやかな録音を聴くと、やはり新コンビのライブを体験したくなる。

今回は世界トップ級のバリトン歌手ハンブソンが歌うマーラーの歌曲も貴重な聴きもの。そしてチャイコフスキーの交響曲第5番は、スコアのすべての音やフレーズが高精度に表出された、かつてない名演の予感がひしひしと漂う。

話題性抜群かつ対照的な色合いの両公演を、ぜひとも併せて堪能したい。

柴田克彦(音楽評論家)

大和証券グループ Presents

ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
[指揮] アンドリス・ネルソンス
[バリトン] トーマス・ハンブソン

マーラー: 歌曲集「子供の不思議な角笛」から
(バリトン: トーマス・ハンブソン)
チャイコフスキー: 交響曲第5番 小短調 op. 64

2019.6/2(日) 2:00PM

S 23,000円 A 20,000円 B 17,000円 C 14,000円 D 10,000円

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[ご予約・お問い合わせ] カジモト・イープラス 0570-06-9960
[主催] KAJIMOTO
[特別協賛] 大和証券グループ

発売中

フランス語圏楽団のエレガンスに
ドイツ的要素をミックスした、伝説の名門

スイス・ロマン管弦楽団

Orchestre de la Suisse Romande

指揮: ジョナサン・ノット(音楽監督)
Jonathan Nott, Music Director

©Enrique Pardo

4月、6月に大阪上陸！

2019年前半、ザ・シンフォニーホールには注目の新コンビが続けて登場する。まずは4月にノット指揮/スイス・ロマン管弦楽団。1918年の創設から半世紀に及ぶアンセルメとのコンビで一斉を風靡した同楽団は、その後もサヴァリッシュやルイーダの名匠によって磨かれ、14年の山田和樹指揮の日本ツアーでも精彩に富んだ快演を展開した。魅力はフランス語圏の楽団ゆえのエレガントさと精緻な構築。そこに清新な香りや立体感をもたらすのが、17年に音楽監督に就任したノットである。彼は、バンベルク響や東響での成果が目覚ましい、知性とパッションを併せ持つ名匠。特にコンビ初CDでの生気溢れる音楽を聴くと、ライブに行かずにはおれなくなる。

メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲&マーラーの交響曲第6番「悲劇的」のプロも楽しみだ。16年モントリオール国際音楽コンクールで優勝後の躍進著しい新スター、辻彩奈の表現意欲溢れる独奏も必聴。「悲劇的」はモダンな音楽に自信をもつコンビのダイナミズムに熱視線が注がれる。

スイス・ロマン管弦楽団

[指揮] ジョナサン・ノット
[ヴァイオリン] 辻彩奈

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 小短調 op. 64
(ヴァイオリン: 辻彩奈)

マーラー: 交響曲第6番 小短調「悲劇的」

2019.4/14(日) 2:00PM

S 14,000円 A 11,000円 B 8,000円 C 6,000円

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[ご予約・お問い合わせ] カジモト・イープラス 0570-06-9960
[主催] KAJIMOTO / ABCテレビ

発売中



©Enrique Pardo

スイス・ロマン管弦楽団(OSR)は基本的にフランス語を話す、フランスの美学をもつオーケストラですが、多くの音色を表現する“統一国家”としての才能もあります。プログラムも、フランスの音楽を基本として、ドイツの音楽もミックスすることに重きをおいていますが、21世紀のオーケストラは、確かな技術をもって音色やスタイルを適切に、曲目によって使い分ける必要があると思います。ドイツ、フランスの音楽は、それぞれ異なる音色をもっており、またモーツァルトの音色がベートーヴェンとは違うように、OSRは技術(ヴィルトゥオーシティ)で表現を変えることができます。そのため、楽団の100周年を記念する日本でのプログラムでも様々なスタイルをもつ曲目をミックスしました。

ザ・シンフォニーホール公演でも、共通点がありながら対照的、というワクワクする曲目を選んでいきます。マーラーの交響曲第6番の前に、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲。メンデルスゾーンは洗練されていて、とてもポジティブな音楽です。大きな喜びがあります。それでいて、この音楽から私は弱さを感じたことはありません。とても強い音楽で、第1楽章は“アパッショナート”。そうした要素はマーラーにもあります。音色も異なり、違う音楽ですが、同じ詩情が緩徐楽章にも見出せます。このプログラムの前半は喜びへの情熱、後半は絶望への情熱なのです。

スイス・ロマン管弦楽団 音楽監督
ジョナサン・ノット



©Warner Classics

ヴァイオリン: 辻 彩奈
Ayana Tsuji, Violin



[ヴァイオリン]ワディム・レーピン [バレエ]スヴェトラナ・ザハロワ
[バレエ]ミハイル・ロブーヒン
フェスティバル・アンサンブル(リーダー:南 紫音) ほか

【ザハロワ出演曲】グラスノフ:「ライモンダ」よりグラン・アダージョ[振付]マリウス・ブティバ[改定振付]牧阿佐美/サン＝サーンス:瀕死の白鳥[振付]ミハイル・フォーキン/J.ウィリアムズ:「シンドラのリスト」よりRevelation[振付]平山素子 (録音音源使用) ほか
【レーピン・ソロ曲】サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソp.28/チャイコフスキー:ワルツ・スケルツォop.34/マスネ:タイスの瞑想曲 ほか

2019.6/5(水) 7:00PM

SS 16,200円 S 10,800円 A 6,480円(税込)

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]AMATI/ザ・シンフォニーホール

発売中

Message from スヴェトラナ・ザハロワ

大阪はその景観はもちろん、歴史・伝統も含めカラフルでヴァリエーション豊かで大変に美しく特別な街だと思います。お客様は皆さんバレエ、音楽への造詣も深く、いつも暖かく迎えて下さいます。そんな皆さんのために演じることはいつもこの上ない喜びです。そして初めてのザ・シンフォニーホール!この《パ・ド・ドゥ》のパートナーであり愛する夫であるワディムが「世界中で最も素晴らしいホールのひとつ」といつも眼を輝かせて話してくれたステージについてに立てることを今からとても楽しみにしています。

雪と氷に包まれたモスクワより愛をこめて
スヴェトラナ・ザハロワ



シンフォニーホールならではの
豊富なひとときを全身で体感

演でザハロワと共演を重ねてきた。安定感のあるパートナーシップに甘んずることなく、新たな表現や可能性に真摯に向き合う姿勢が今日の踊りに結実した。その類い稀なる舞踊が評され、2018年にはロシア連邦功労芸術家に。ダンサーとして円熟期に入った彼の踊りも大きな見どころだ。

音楽ファンもバレエファンも欣喜雀躍する演目にも注目。レーピンの独奏と、抜群の人気と実力を誇る若手ヴァイオリニスト南紫音が率いるフェスティバル・アンサンブルが奏でる調べにのせて、プティパ版を基に牧阿佐美が改訂振付をした、クラシック・バレエの優美さを表象する「ライモンダ」よりグラン・アダージョ、数

多の伝説的なバレリーナ達が名演を重ねてきた「瀕死の白鳥」、日本舞踊界を代表するコンテンツポ
ラーダンサー平山素子の振付による「Revelation」など、古典と新たな作品を織り交ぜた彩色豊かなラインアップ。これだけでも充分なほどだが、特筆すべきは、この公演ではザ・シンフォニーホールならではの特性と形状が存分に発揮され、この豊潤なひとときを全身で体感できることだろう。

レーピンの絹のようなヴァイオリンの音色を近くに感じられることはもちろんだが、舞台と客席の近さ、視線の低さゆえに、ダンサーたちの息づかいや、衣装の衣擦れする微かな音、ほとばしる汗の煌めきまでも密な空間で記憶に焼きつけることができる。贅沢さ。「瀕死の白鳥」では、白鳥の息絶えるその最期の瞬間の息づかいまでもが手に取るような距離で感じとれるであろう。音楽と舞踊が溶け合うその至福の瞬間を、あますことなく堪能したい。

(文 吉村麻希)

ロシアの至宝ザハロワと稀代のヴァイオリニストレーピンの熱演が、ザ・シンフォニーホールで初開催！

スヴェトラナ・ザハロワ

S v e t l a n a Z a k h a r o v a

ワディム・レーピン

V a d i m R e p i n

「瀕死の白鳥」

“パ・ド・ドゥ for Toes and Fingers”



公演を熱望する声が高かった
関西での初の公演！

至高の魂と魂が寄り添い、響き合う。そんな奇跡のような舞台が実現するのは、ボリショイ・バレエ団の頂にプリマとして燦然と輝く名花スヴェトラナ・ザハロワと、ロシアを代表する世界的ヴァイオリニストワディム・レーピンの競演が話題の「パ・ド・ドゥ for Toes and Fingers—瀕死の白鳥—」。

ロシアの至宝ザハロワと、稀代のヴァイオリニストレーピンの結婚というビッグニュースが世界を駆け抜けたのは2010年のこと。2014年にレーピン自身が芸術監督を務めるトランス・シベリア芸術祭でファン待望の共演が実現。2016年、2017年と日本でも公演し、その熱演が絶賛されたことが記憶に新しい読者もいるだろう。このたび、公演を熱望する声が高かった関西での初の公演！否応無しに期待は高まる。

共に舞台を造り上げるのは、ボリショイ・バレエ団プリンシパルのミハイル・ロブーヒン。端美で確実な技術と力強さ、芯のある役作りで、ボリショイらしさを体現している。と定評のあるロブーヒンは、これまでも団内外の公



ヴァイオリン リチャード・リン



若き俊英たちが揃う台湾フィル。
7年振りの来日
楽団史上初の大阪公演!



指揮 リウ・シャオチャ

Interview

台湾フィルハーモニック

近年、アジアのオーケストラが着実に実力を増し、来日公演も増えることで、その動向に強い視線が注がれている。この度、7年ぶりに来日し、初の大阪公演を行う台湾フィルハーモニック（国立オーケストラ）もそんな注目株のひとつ。過去に、マゼール、スラットキン、ホグウッドといった巨匠と共演して名声を高め、2010年からは台湾出身のリウ・シャオチャが音楽監督を務めている。彼は、ハンブルク州立歌劇場の音楽監督をはじめ、欧州のオペラやオペラハウスで活躍がめざましいことでお馴染みだろう。

今回はシャオチャと同フィルのコンビが10年目のシーズンを迎えるタイミングの来日ということ、芥川也寸志「交響管弦楽のための音楽」・江文也「台湾舞曲」という日台を代表する名曲を演奏。シャオチャは、「台湾と日本は地理的にも人間的にも密接な関係があり、西洋のクラシック音楽を同じように学んできた経験があります」と語り、「前回の来日から今回までの間に、台湾の音楽教育のレベルは飛躍的に向上。欧米で研鑽を積んだ若く優秀なメンバーが楽団の中心を担うようになりました。両国をより深いレベルで繋ぐ演奏をご期待ください」と意気込む。

この2曲の間には、3大ヴァイ

オリン協奏曲のひとつ、メンデルスゾーンのホ短調の協奏曲を配置。ソリストは、13年の仙台国際、18年のインディアナポリス国際と難関コンクールを相次いで制した台湾出身のリチャード・リンだ。クラिसラーやハイフェッツの黄金の音色を受け継ぐ俊才と謳われる彼は、当公演に向けた抱負を次のように語る。

「日本での演奏は5年ぶり。台湾最高の指揮者＆オケの日本ツアリーのソリストに選ばれて大変光栄です。アメリカの音楽院において、ヨーロッパの伝統を受け継ぐ恩師たちから学んだ古き佳き巨匠たちのスタイルを踏まえて、憂愁な旋律美にあふれたこの名曲に新たな息吹を吹き込みたいと思います。あと、大阪で演奏するのは今回が初めて。美味しいものが沢山あると伺っているので、とても楽しみです(笑)」

そして今回のメイン・プログラムに選ばれたのが、シベリウスの交響曲第2番。シャオチャ＆台湾フィルが過去に録音を行い、18年にシャオチャが客演した仙台フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会でも指揮した十八番だ。「私がヨーロッパで吸収してきた台湾フィルの独自性を追及してきた台湾フィル。その進化を体現した演奏をお届けしたいと思います」とはシャ

オチャの自信に満ちた弁だが、得意のオペラを彷彿とさせるドラマティックな音楽絵巻が期待できそうだ。

そんな彼は、初の大阪公演に向けて次のコメントを寄せてくれた。「我々が日本で過去に演奏したのは、東京、横浜、札幌のみ。今回は、独自の歴史と文化がある大阪の街を初めて訪れ、日本初のクラシック専用ホールであるザ・シンフォニーホールで素晴らしい音響の中で演奏できることを心待ちにしております!!」

(文 渡辺謙太郎)

発売中

[指揮]リウ・シャオチャ [ヴァイオリン]リチャード・リン
[管弦楽]台湾フィルハーモニック

芥川也寸志: 交響管弦楽のための音楽/メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64/江文也: 台湾舞曲 op.1/シベリウス: 交響曲 第2番 二長調 op.43

2019.5/6(月・休) 2:00PM
S 7,000円 A 6,000円 B 5,000円 (税込)

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ]株式会社アスペン 03-5467-0081

[主催]株式会社アスペン/ザ・シンフォニーホール

Interview

指揮:飯森範親
×
オルガン:富田一樹

オルガン
富田一樹

指揮
飯森範親

華やかさと神々しさが絡み合う
サン＝サーンスの第3番。
聴くものすべての心を揺さぶる壮大な響き。

日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール ラフマニノフ&サン＝サーンス 2つの第3番



日本センチュリー交響楽団



ピアノ:上原彩子

飯森範親がタクトを振る、大好評の「日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール」のシリーズ第4回は、2016年バツハ国際コンクールオルガン部門で日本人として初めて優勝した富田一樹が登場する。

本公演では、二大作曲家による「第3番」の2つの名作を取り上げる。ピアノストの上原彩子がソリストを務める前半のラフマニノフ《ピアノ協奏曲第3番》に続き、富田が出演する後半は、サン＝サーンス《交響曲第3番》を演奏する。飯森は「神聖な雰囲気と俗世界の人間の様々な営みの中の葛藤を

垣間見ることができ、オルガンの和音で、そういった人間の煩悩をふっと振り払ってくれるという印象を持っています」と語る。

オルガン奏者として20年に渡り、パリの聖マドレーヌ教会で活動したサン＝サーンス。自国フランスでは、作曲家として評価されず、この曲を世に出す8年前は、一か月の間に2人の子どもを亡くしている。それらの苦悩とオルガン奏者としての神聖さとの両面が伝わってくる曲だ。富田は「ガサガサとかき乱される音楽があったと思えば、教会で歌われる合唱曲のようなフレーズが出てくる」と表現する。人生の苦しみを表した音色には共感でき、澄んだ音色は優しい気持ちにさせてくれる。

「荒々しさから音がスーッと澄んで消える瞬間までの透明感は、(演奏する上で)命です。日本センチュリー交響楽団は、響きが研ぎ澄まされているから上手いと思う」と飯森は太鼓判を押す。

日本センチュリー交響楽団は、いつも薫が絡み合うように、それぞれの楽器同士が寄り添う音色を奏でる。それは一つの生命を誕生させるような神々しさまで感じさせ、喜びとなって、客席に伝わってくる。

飯森は「富田さんの音色のチョイスが楽しみ」と話し、富田は「音

色を選ぶのはとても大変。正直プレッシャーを感じますが、ヨーロッパで聴いてきた響きを思い出しながら演奏したい」と期待を込める。オルガンの音色と日本センチュリー交響楽団とのハーモニーは、大いに心を揺さぶることだろう。

飯森は公演を楽しみにしているお客様へ向けて、こうメッセージを送る。

「ラフマニノフもサン＝サーンスの曲も、ワクワクする場所とイラツとしてしまう様な箇所と、とろけてしまうような箇所と、色々なシーンが満載。ロシアとフランスの作曲家と、それぞれそういう面にも注目して、楽しい2時間にしていただけたら嬉しいです」

発売中

[指揮]飯森範親 [ピアノ]上原彩子
[オルガン]富田一樹
[管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ラフマニノフピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30
サン＝サーンス:交響曲 第3番 ハ短調「オルガン付き」 op.78

2019.3/21(木・祝) 2:00PM
S 5,940円 A 4,860円 B 3,780円 (税込)
[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[お問合せ]センチュリー・チケットサービス 06-6868-0591
[主催]公益財団法人日本センチュリー交響楽団/
ザ・シンフォニーホール

(取材:文 金子真由)

ロシアの二大傑作で、
ザ・シンフォニーホールに
感動と熱狂が再び沸き上る！

大植英次 指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団 「シェエラザード」×「春の祭典」

©飯島隆

大植英次は、大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督離任後も、桂冠指揮者として同楽団と密接な関係にある。2018年は、3月に「大阪フィル70周年×ザ・シンフォニーホール35周年特別コンサート」で大きな成功を収め、7月の定期演奏会に登場してホルストの「惑星」を指揮し、9月には「大阪クラシック」で大阪フィルとともに大阪の街を音楽で盛り上げた。

昨年3月、ザ・シンフォニーホールでの「特別コンサート」では、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」とR.シュトラウスの「アルプス交響曲」というドイツの2大大曲を並べたが、その第2弾ともいえる今回のコンサートでは、リムスキー＝コルサコフの交響組曲「シェエラザード」とイーゴリ・ストラヴィンスキーのバレエ音楽「春の祭典」というロシアの二大傑作を取り上げる。

若きストラヴィンスキーは、サンクトペテルブルクで晩年のリムスキーに作曲を師事していた。1908年にはリムスキーの娘の結婚を記念して、管弦楽小品「花火」を書いている。しかし、リムスキーはその年に亡くなってしまふ。そこでストラヴィンスキーは恩師を追悼して「葬送の歌」を作曲したのであった（この作品は、長く紛失されたと思われていた

が、2015年に楽譜が発見され、2016年に100年以上ぶりに蘇演された）。そして、1910年から13年にかけて、ストラヴィンスキーは「火の鳥」「ペトルーシユカ」「春の祭典」の三大バレエを発表する。ある意味、「春の祭典」はリムスキーの流れから生まれた作品ともいえよう。今回、近代的な管弦楽法を開拓したリムスキーとオーケストラ音楽に革命を

起こしたストラヴィンスキーとの師弟作品が並べて演奏されることは極めて興味深い。「シェエラザード」がペルシャの「千夜一夜物語」の世界だとすれば、「春の祭典」はロシアの原始宗教の儀式を描く、ともに非常に描写的な音楽。大管弦楽を使ったドラマティックな音楽は、大植英次が最も得意とするところである。特に「春の祭典」は、ミネソタ管弦楽団の音楽監督時代に同楽団とCD録音もしている大植の十八番のレパートリーといえる。

大植英次&大阪フィルがオーケストラの醍醐味を満喫させてくれるに違いない。

(文 山田治生)



©s.yamamoto

発売中

[指揮] 大植英次

[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団

リムスキー＝コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」op.35

ストラヴィンスキー:バレエ音楽「春の祭典」

2019.2/22(金) 7:00PM

S 7,020円 A 5,940円 B 売切 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール/公益社団法人大阪フィルハーモニー協会

Interview

新たな伝説の始まり——
外山雄三の
「未完成」
「運命」
「新世界より」

外山雄三

Y U Z O T O Y A M A

「三大交響曲」



大阪交響楽団

前号に引き続き、今号では『運命』について外山に話を伺った。なんでも外山雄三の指揮者デビューは『運命』なのだとか。

「1956年かな? (筆者注: 9月14日と16日、日比谷公会堂でのNHK交響楽団特別演奏会) 『運命』と、ラフマニノフの2番のピアノ協奏曲を長岡純子さんと演奏したんです」

ということは、どうやら思い入れの強い作品なのだ。

「誰が『運命』なんて名前を付け

たのだから解らないですが、あんなに隙のない、整った形式の音楽はあまり他に例がありません。作品そのものに隙のない音楽だと言えます。だから演奏する方としては、大変に努力を使う曲なんです。それは聴衆の皆さんにも言えることで、非常に緊張を強いられるし、一音たりとも逃すまいと身を乗り出して聴く事を要求している。そういう音楽だと思っています」

なるほど、徹頭徹尾執拗なまでに繰り返される『運命の動機』に、聴き手だつて集中力が高まるってものだな、と納得。

「ですから演奏する立場としては、どんなに一生懸命やってもキズは起こりえるでしょうね。だから我々は、この曲を演奏することが決まった時から『演奏にキズが無いように!』と思いますよね。でもキズを恐れるあまりに取り敢えずまとめたような演奏ではなくて、より高い、多彩な要求がこの曲の中から提示されてくる。それに応えなければならぬわけで、だから乱暴に言ってしまうと『この曲、そんなに度々やるのはイヤだな』って思いますよね」

それだけに、一期一会の演奏が期待されるというものだ。

「だけども、ベートーヴェンの作品って、その多くが、ああ、きれいだなぁ、ってウツトリしながら演

奏すると、案外命取りになる場合がある。それほど大変な作品だということですよ。でも、演奏者はこの作品に向き合えるのがとても嬉しいし、そこがベートーヴェンの奥の深さなんだと思います」

さらに——

「ベートーヴェンというと、怖い顔をして、後ろ手に組んで散歩して……という姿を連想しますが、どうもそれだけじゃない。だって、とっても女性に惚れっぽいし、情熱的なラブレターも書いていますね。そういう一面もまた描き出せると良いですね」

(取材: 文 三宅坂幸太郎)

発売中

[指揮] 外山雄三 [管弦楽] 大阪交響楽団

シューベルト: 交響曲 第8番 口短調 D.759「未完成」

ベートーヴェン: 交響曲 第5番 八短調 op.67「運命」

ドヴォルザーク: 交響曲 第9番 ホ短調 op.95「新世界より」

2019.4/12 (金) 7:00PM

S 6,480円 A 5,400円 B 4,320円 (税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 公益社団法人大阪交響楽団 072-226-5522

[主催] 公益社団法人大阪交響楽団 / ザ・シンフォニーホール



山響さくらんぼコンサート

2012年から、山形の名産「さくらんぼ」の季節にやってくる山形交響楽団。大阪公演では、来場者全員に山形県東根産のさくらんぼがプレゼントされる。ザ・シンフォニーホールでのゴージャスなロビーでは、山形物産展が開催される。単なるコンサートではなく、おいしい山形の魅力満載のコンサートは、毎年大好評を博している。今年は山響大阪公演では初めて「OPERA GALA」を企画。6年ぶりのザ・シンフォニーホールでの公演を華やかに彩る。

2019年、 関西が生んだオペラ指揮者 阪哲朗が山響常任指揮者に！

京都市出身。1995年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝後、ベルリン・コーミッシェ・オーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場、レーゲンスブルク歌劇場の音楽総監督を歴任。ヨーロッパで指揮したオペラ公演は1000を越える本格派。2019年度より、山形交響楽団常任指揮者に就任する。実は、阪は両親が山形出身。ルーツを山形に持つ指揮者だったのだ。

「3歳の時に初めて山形に帰省したのが最初の思い出。祖母が、県内で唯一音楽科を持つ山形北高の募金活動に奔走していたこともあったようです。今も親戚がたくさんいます。」

常任指揮者に就任する山形交響楽団については、二つに音楽を創ることが出来る大切な仲間。創造性と積極性に溢れている。アンサンブルを創る縦の流れに加え、呼吸を感じていくような横の流れを大切に作りたい。今後例えば、楽譜の小節は四角いけれど、中の音は丸く繋げよう、とか挑戦したいことはたくさんある。」

高校の時に合唱部の指揮をして以来、声にシンパシーを感じるといふ阪が、ヨーロッパを拠点にオペラ指揮者の道を歩んだのは、自然な流れといえる。



絶大な人気を誇る名ソプラノ森麻季 & メトロポリタンなどで喝采を浴びる新鋭大西宇宙

今回、山響という手兵を得て阪が選んだのは華麗な「OPERA GALA」プログラム。

古典美が輝くモーツァルトとドラマティックなヴェルディの世界を二夜で楽しめる贅沢なプログラム。清廉な歌声だけでなく、劇性の強い表現でも世界を魅了する森麻季。彼女に加え、新進気鋭の大西宇宙が登場する。2015年にアメリカデビュー。2018年ベルリン国際音楽コンクール金賞など、輝かしい道を歩む俊英。当代屈指の名歌手と気鋭の大西。この二人の歌声に接することが出来るとあっては、関西のオペラファンにとって、聴き逃せない公演となることだろう。



「単なるOPERA GALAの枠を越えないと面白くないでしょう。モーツァルトのセレナードでは、山響弦楽器首席奏者の妙技をお楽しみいただきます。『リンツ』は、実は私が京都市交響楽団でデビューした時の曲。思い出深いです。」

2017年「モーツァルト交響曲全集CD」を発売、レコード・アカデミー賞を受賞。映画「おくりびと」での演奏などで常に話題を集める山響が、関西出身(山形縁)の阪と、大阪に凱旋する。

「生まれ育った関西と、自分のルーツといる山形。私にとって二つの特別な街を繋ぐコンサートになればと思っています。」

「おいしい山形」と、
ザ・シンフォニーホールに
相應しい

華麗なるオペラの世界に
足を運んでみませんか？

さくらんぼコンサート2019 大阪公演 "OPERA GALA"

[指揮] 阪 哲朗 [ソプラノ] 森 麻季 [バリトン] 大西 宇宙

モーツァルト: 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」K.527 第1幕 二重唱「お手をどうぞ」

ヴェルディ: 歌劇「リゴレット」第1幕「娘よ! お父様!」

モーツァルト: 交響曲 第36番 長調「リンツ」K.425 ほか

2019.6/29(土) 5:00PM

S 5,000円 A 4,000円 B 3,000円 (税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 山響チケットサービス 023-625-2204

[主催] 公益社団法人 山形交響楽協会 / ザ・シンフォニーホール

一般発売: 1/24(木)

チェコ国立 ブルノ・ フィルハーモニー 管弦楽団



指揮:レオシュ・スワロフスキー

チェコ第二の都市ブルノ。
伝統を受継ぐオーケストラが
名匠スワロフスキーとともにやって来る！

注目のソリスト、アリョーシャ・
ユリニッチにインタビュ

今回のツアーではチャイコフ
スキーのピアノ協奏曲第1番を演
奏されますね。

この曲はすべての部分が美しい
ですが、特に好きな部分を挙げる
としたら、まずは第1楽章のカデ
ンツァ。そして第2楽章の序盤に
とても美しい主題があるので
中間以降にその主題が繰り返され
る部分が好きですね。この協奏曲
はとても魅力的で皆に愛され、抒
情的でメロディーが美しい。後に
熱烈な部分があることを忘れてし
まうほど穏やかで、でもその掛け
合わせが私にとって重要です。

私は舞台上で演奏しているとき
にインスパイアされたりハート
と少し違った演奏をしたいと思
うことがあるのですが、これが1
度きりの公演だと難しい。何度か
演奏して指揮者やオーケストラに
ついて知ることができれば、そう
いった少し違うことをすることが



ピアノ:アリョーシャ・ユリニッチ

Interview

できます。それが私にとって音楽
の魅力でありツアーの面白いこ
ろです。

——ピアノに興味を持ったきっか
けを教えてください。

私はピアノを8歳から始めま
した。3、4歳から始めている演
奏家が多いので遅い方だと思いま
す。それも習い事の1つとして始
めたので最初はそんなに練習もし
ていませんでした(笑)。しかし先
生は私が何か持っているもの(才
能)があるかもしれないと思って
くれたみたいです。先生とたくさ
ん練習し、良い方向に導いてくれ
ました。普通の幼年期を過ごし、
良いことも悪いことも、普通の子
供が経験することをしてしまし
た。これはとても重要な事です。
作曲家はただ音楽を作るのではな
く、人生を曲にします。愛や経験
を曲にするのです。私の経験のす
べてが演奏に繋がると思います。
またこれも大事な事です。私が
幼いころ、クローチアでは紛争が
ありました。紛争中は誰も他の事
を気に掛けることができませんで
した。その経験もおそらく私が成
長する上で大事な一部となったと
思います。

——演奏も表情も生き生きとした
ユリニッチ。日本ツアー最後とな
る大阪公演に向けて、皆さまへビ
デオメッセージをお送りします。

【指揮】レオシュ・スワロフスキー 【ピアノ】アリョーシャ・ユリニッチ
【管弦楽】チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団

【オール・チャイコフスキー・プログラム】

チャイコフスキー: 歌劇「エフゲニー・オネーギン」より「ボロネーズ」／ピアノ協奏曲
第1番／交響曲 第6番「悲愴」

2019.2/23(土) 2:00PM

S 10,000円 A 8,000円 B 5,000円 (税込)

【ご予約】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【お問合せ】光藍社チケットセンター 050-3776-6184

【主催】光藍社

発売中

ロビーコンサートも開催！

ブルノ・フィルメンバーによる
アンサンブルをお楽しみください。
(13:30頃より約15分間を予定)



※写真はいメージです。

アリョーシャ・
ユリニッチ
ビデオメッセージは
こちらから。



長富彩 ピアノ・リサイタル Vol.3 オール・ショパン・プログラム

3度目のリサイタルシリーズ

長富彩が表現するショパンの人生の光と影

[ピアノ]長富 彩

【オール・ショパン・プログラム】バラード 第1番 ト短調 op.23/バラード 第4番 ヘ短調 op.52/スケルツォ 第1番 ロ短調 op.20/ワルツ 第3番 イ短調 op.34-2「華麗なる円舞曲」/ワルツ 第7番 嬰ハ短調 op.64-2/12の練習曲 op.25 全曲

2019.2/9(土) 7:00PM

全席指定 3,000円 (税込)

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ]テレビマンユニオン 03-6418-8617

[主催]テレビマンユニオン/ザ・シンフォニーホール

発売中



©At Ueda

ザ・シンフォニーホールのリサイタルシリーズで、これまで『ベートーヴェン/リスト』『ラフマニノフ』に取り組んできた長富彩。3回目は、オール・ショパン・プログラムを披露する。本公演では、前半に短調作品の数々を、後半に『12の練習曲』を演奏する。「ロマンチックなイメージとは異なる短調作品ですが、ショパンのダークな部分を感じて頂ければ、『12の練習曲』は、エオリアン・ハープの美しい曲から始まり、波が押し寄せるような『大洋』で終わります。一つの物語をじっくりと味わうように聴いてもらいたい」。

この一年間で、ショパンのコンチェルトを演奏したり、1843年製のプレイエルに触れたりする中で、作曲家と向き合ってきた。「ショパンはこんな風に弾いてほしかったのではと、プレイエルの楽器から色んなことが浮かんできました。伝記を読んで、ショパンのこの辛い経験は、今私を感じていることと同じかな、と寄り添う。正解はないけれど、より近づくことはできる」と語る。

人は誰しも、心の中に光と影を織り交ぜながら生きている。長富が奏でる音色に心寄せることは、自身と向き合うことになるのかもしれない。

「私が思い描くショパンを感じていただけるようなコンサートにして、お客さまに楽しんでいただけたらと思います」

(取材・文 金子真由)

川井郁子 シンフォニック バレンタインコンサート ~シネマ・ファンタジー~

愛の季節に、大切な人と思い出の曲を。

映画音楽を、情感たっぷりの演奏で味わう。

[ヴァイオリン]川井郁子 [ハープ]朝川朋之 ウェスト弦楽合奏団

バーンスタイン:『ウエストサイド・ストーリー』より/R.ロジャース:『サウンド・オブ・ミュージック』より/秦 基博:『ひまわりの約束』/ロータ:『ロミオとジュリエット』/坂本龍一:『ラスト・エンペラー』/A.メンケン:『アラジン』より「ホール・ニュー・ワールド」ほか

2019.2/11(月・祝) 2:00PM

S 5,400円 A 4,320円 (税込)

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]アイケイ・オフィス/ザ・シンフォニーホール

発売中



あの日の時、あの人と観た一本の映画。感動で胸が熱くなったり、主人公と自分を重ねたりと、映画にまつわる思い出は人さまざま。それは川井郁子にとっても同じだろう。

毎年大阪のファンに人気の、ヴァイオリニスト川井郁子のシンフォニックバレンタインコンサート。2月11日はシネマ・ファンタジーをテーマに、川井のヴァイオリンと朝川朋之のハープ、そして川井が大阪芸術大学で教えた若手演奏家らで構成されるウェスト弦楽合奏団で、情感たっぷりにさまざまな映画音楽を奏でる。

J. ヴィリアムズの「シンドラーのリスト」、S. フェインの「慕情」、バーンスタインの「ウエストサイド・ストーリー」、ロータの「ロミオとジュリエット」など、まさに名作に名曲ありという演目がそろう。さらに秦基博「ひまわりの約束」や、A. メンケンの「アラジン」より「ホール・ニュー・ワールド」など、子どもがワクワクするような曲もプログラムに入れたのは、娘を持つ川井ならではの。

『「ひまわりの約束」は、私の娘がとても好きな曲で、よく一緒に歌っていました」と語る彼女からは、娘への情愛がこぼれるよう。

ザ・シンフォニーホールで、大切な人とともに思い出のシーンに浸りながら、そして感想をかわしながら、普段音楽を聴く時とはまた違う感動を分かち合ってみよう。

(文 國松珠実)

The Symphony Hall String Quintet Vol.5

関西オーケストラのトップ奏者たちの
新たな魅力が発見できるプログラム

発売中

[ヴァイオリン] 田野倉雅秋、岡本伸一郎

[ヴィオラ] 木下雄介 [チェロ] 北口大輔 [コントラバス] 村田和幸

レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲/タルティーニ:悪魔のトリル(弦楽五重奏版)/ショスタコーヴィチ:室内交響曲 op.110a ほか

2019.3/18(月) 7:00PM

全席指定 3,240円(税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 大阪アートエージェンシー 072-648-3852 [主催] ザ・シンフォニーホール



写真左から、田野倉雅秋(大阪フィルハーモニー交響楽団)／岡本伸一郎(大阪交響楽団)／村田和幸(日本センチュリー交響楽団)／北口大輔(日本センチュリー交響楽団)／木下雄介(大阪フィルハーモニー交響楽団)

2017年2月の初コンサートから2年。ホールと一緒に極上の響きを生み出し、室内楽の魅力を多角的に紹介してきた弦楽五重奏団「ザ・シンフォニーホール・ストリング・クインテット」。これまでのステージを振り返り、田野倉雅秋(ヴァイオリン)／大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスターは、「この5人ができること、そして期待されていることを自覚することができました」と語る。

節目となる5回目。注目のプログラムは、「タルティーニからショスタコーヴィチまで、ヴェネチアからスタートして、ローマに寄って、遠いロシアまで、400年の時を駆け抜けます」と、音楽の旅を楽しませてくれる。

「難曲でありながら美しさ際立つ作品《悪魔のトリル》、16世紀の旋律をモチーフに、いにしえの情景を組曲にまとめた名作、対照的に、圧政による精神的荒廃を表した作曲者のメッセージそのものといえる傑作、音楽的アプローチの全く異なった作品をお届けします」

今後の展開については「地に足を付けて、音楽表現の質の高さを求め続ける、王道を歩みたいと思っています」と田野倉。関西オーケストラのトップ奏者であるこの5人だからこそ奏でられる音楽を楽しんでほしい。

「クインテットのメンバーひとりひとりの個性や主張を余すことなく出し合い、音楽と対峙するエネルギーに変換して音楽を奏でます」

思い出がいっぱい 珠玉のシネマ名曲 SELECTION VOL.5 荒庸子 チェロ・リサイタル 2019

桜が咲き始め、心踊る季節に、
懐かしい思い出に浸ってみませんか？

発売中

[チェロ] 荒庸子 [ピアノ] 山田武彦

マンシーニ:『ティファニーで朝食を』より「ムーン・リバー」/チャップリン:『ライムライト』より「エターナリー」/『モダン・タイムズ』より「スマイル」/メンケン:美女と野獣/モリコーネ:『海の上のピアニスト』より「愛を奏でて」/ハーウィッツ:『ラ・ラ・ランド』より「アナザー・デイ・オブ・サン」/ピアソラ:リベルタンゴ/サン=サーンス:『動物の謝肉祭』より「白鳥」/フェイン:『暮情』より テーマ曲 ほか

2019.3/23(土) 7:00PM S 3,240円 A 2,160円(税込)

プレミアムシート 4,320円[S席+スパークリングワイン1杯(開場・休憩時に2Fカフェにてご利用可能)]

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] カノン・ミュージック/ザ・シンフォニーホール



©Ai Ueda

開催5回目を迎え、ザ・シンフォニーホールの春を彩るコンサートの定番となっている「思い出がいっぱい 珠玉のシネマ名曲 SELECTION」。今年も荒が好きな映画音楽、今奏でたい名曲をお客様に届けていく。

演目は、映画『ティファニーで朝食を』より「ムーン・リバー」、尊敬する芸術家チャップリンの『ライムライト』より「エターナリー」などの映画音楽はもちろん、ピアソラの「リベルタンゴ」やサン＝サーンス『動物の謝肉祭』より「白鳥」など。さらに今年は「ウエストサイドストーリー」、『ボギーとベス』などのミュージカルソングも加わり、より多彩な音楽が楽しめるのも魅力だ。

また、作編曲家・ピアニストの山田武彦との共演もお馴染みで、「いつも斬新なアレンジを加えていくので、ステージで何が起きるかわからない。予定調和でないところもワクワクドキドキして、毎回一緒に演奏していてとても面白いです」と彼女は語る。

聞き馴染みのある名曲もこのコンサートならではの新鮮な楽しみ方ができるに違いない。

「おかげさまで5回目を迎えることができて感謝でいっぱいです。毎年、お客様一人ひとりの出会いも楽しみにしていますので、音楽を通して、コミュニケーションをとることができればと思っています。3月という新しい季節に、来てくださる皆さまが、今年も頑張ろうと元気になってくださるようなコンサートにしたいと思います」

大阪交響楽団 0歳児からの“光と映像で楽しむオーケストラ”Vol.14 ~Vivaオペレッタ~

ファミリーで楽しめるコンサート!
ホールに入った瞬間から広がる、素敵な音楽空間!

[指揮] 平川範幸 [ソプラノ] 西田真由子 (堺シティオペラ)
[歌のお兄さん・お姉さん] 新井宗平 / 山本かずみ [管弦楽] 大阪交響楽団

楽器紹介コーナー / 音楽リズムあそびコーナー / ヨハン・シュトラウスII: 喜歌劇「こうもり」アデーレのクープレ “侯爵様、あなたのようなお方は” ほか

2019.3/27(水) 午前の部:11:00AM / 午後の部:2:00PM

S おとな 2,500円 A おとな 2,000円 B おとな 1,500円

S こども 1,500円 A こども 1,000円 B 小学生 800円 (税込) ※休憩なし。約60分の公演です。
こども…0歳児~小学生まで ※B席は未就学児不可。※乳幼児のお子様(お膝の上でも)も必ず座席券をご購入ください。

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 公益社団法人 大阪交響楽団 072-226-5522

[主催] 公益社団法人 大阪交響楽団 / ザ・シンフォニーホール

一般発売: 1/10(木)



お子様の笑い声と歌声(泣き声も!)で毎回大盛況のこのコンサートは、プロオーケストラが演奏する上質の音楽を0歳のお子様からファミリーと一緒に楽しめることで話題と人気を集め、早くもシリーズ14回目の開催を迎えます。

3月のコンサートは、Vivaオペレッタ!!と題して、ソプラノをフィーチャーします。麗らかな春にぴったりの、心躍らせてくれる清々しい歌声が、ホールに響き渡ります。途中には、音楽リズム遊びや楽器紹介などの楽しいコーナーも目白押し。また、大阪交響楽団による迫力満点のオーケストラサウンドとともに、お子様をさらに夢中にさせる、煌びやかなプロジェクション・マッピングもお楽しみいただけます。

本編の前には、歌のお兄さんとお姉さん、オーケストラメンバーによるロビーコンサートもあり、みんなで歌って踊って、毎回大好評! ホールへ来場したときからお帰りにするまで、ずっと楽しい音楽空間がここにはあります。

また、ザ・シンフォニーホール内には、この公演に限り授乳室、おむつ替え室、ベビーカー置き場も完備しているので、お子様と一緒に、最後まで安心してコンサートを楽しむことができるのも魅力。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、ご家族の素敵な思い出に、ぜひホールへ遊びに来てください。

速報!!

心奪う多彩な音色が、今年も夏のザ・シンフォニーホールに響く

オールバッハ名曲選!! 真夏のオルガンコンサート2019

富田一樹(バッハ国際コンクール優勝)2つのトッカータとフーガ

Interview

[オルガン] 富田一樹

J.S.バッハ: トッカータとフーガ 二短調 BWV565 / いと高きところにいます神にのみ栄光あれ BWV663 / われを憐れみたまえ、おお主なる神よ BWV721 / フーガ ト短調「小フーガ」 BWV578 / おお愛する魂よ、汝を飾れ BWV654 / 最愛のイエス、われらここ集いて BWV731 / トッカータとフーガ 二短調「ドリア調」 BWV538

2019.7/27(土) 7:00PM ※休憩なし。約60分の公演です。

全席指定 2,160円 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 1/24(木) 一般発売: 1/27(日)



オルガン 富田一樹

「バッハのオルガン作品の様々な名曲を皆さんに紹介させて頂き、この上ない幸せでした。また2019年の夏にも出演させて頂けること、大変楽しみです」

毎年、完売必至のザ・シンフォニーホールの夏の恒例「真夏のオルガンコンサート」が今年も開催! オルガニストは昨年に続き、2016年にバッハ国際コンクールで日本人として初めて優勝を果たした富田一樹が登場する。

プログラムは、公演名にもなっている、2つのトッカータとフーガ。また、「おお愛する魂よ、汝を飾れ」、「最愛のイエス、われらここに集いて」など。

「巨大な建築物を思わせる壮大なトッカータとフーガBWV538は圧巻です。即興的で稲妻のような旋律を持つ有名なBWV565とは違った魅力があります。癒やしや希望を与えてくれる4つのコーラルも聴き逃せません」

毎年、バッハの命日(7月28日)に近い日程に開催するこの公演。バッハに魅せられた彼の、飲みに溢れた音色を聴いてほしい。

「バッハのオルガン音楽からいつも感じることは、情熱、愛、慰めといった言葉です。複雑な現代社会だからこそ必要なバッハからのメッセージ、皆さんにも伝わって欲しいと願っています」

バレエ界の至宝 ルグリとトップダンサーが舞う! トップヴァイオリニスト三浦文彰らと夢の競演!!

2019
3
11

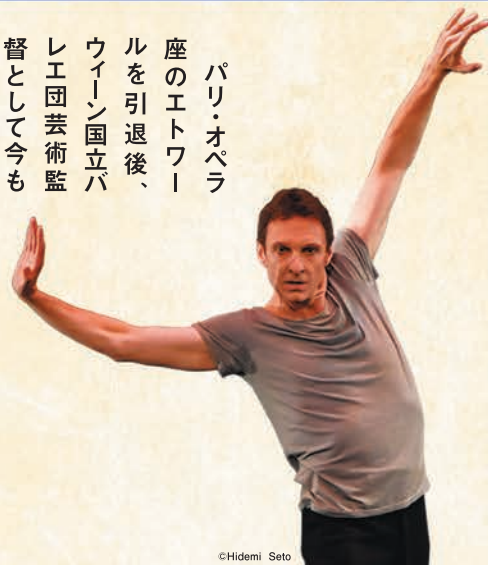
マニユエル・ルグリ

Stars in Blue ~BALLET&MUSIC~

曲『瀕死の白鳥』も
は、サン・サーンス作
そのスミルノフ
謝したい」と応える。
当に貴重な機会。感
さん踊ることは本
ダンサーであるルグリ
ば、彼女は「伝説の
て贈り物」と語れ
との共演は私にとつ
ルグリが「スミルノフ

なかつた組み合わせで観ることができる。
スミルノフという、世界が熱望しても叶わ
派ワガノフ・バレエの教育を受けたロシアの至宝
パリ・オペラ座スタイルの伝道者ルグリと、正統
を題材に、新たに創作。物語のテーマ「沈黙の愛」
『シルク(仮)』という作品は、詩人アレクサンドロ・
バリッコの世界的ベストセラー小説『絹(シルク)』
世界中の注目を浴びるバレエ界の至宝、マニユエル・
ルグリがボリショイ・バレエのプリンシパル、オルガ・
スミルノフとパ・ド・ドゥを世界初披露! この

座のエトワールを引退後、
ウィーン国立バレエ団芸術監督として今も



©Hidemi Seto



『瀕死の白鳥』 ©Darian Volkova

Program 演目 ※12/4現在 最終的な出演者・演目は当日発表とさせていただきます。

『シルク(仮)』(世界初演作)
原作:アレクサンドロ・バリッコ著「絹」より
振付:パトリック・ド・パナ
音楽:クリストフ・ヴァリバル・グルック、フィリップ・グラス
出演:マニユエル・ルグリ、オルガ・スミルノフ
三浦文彰(V)、田村 響(P)

『Moment』
振付:ナタリア・ホレツナ
音楽:ヨハン・セバスチャン・バッハ
フェリッチョ・ブゾニ
出演:マニユエル・ルグリ、滝澤志野(P)

『瀕死の白鳥』
振付:ミハイル・フォーキン
音楽:カミーユ・サン＝サーンス
出演:オルガ・スミルノフ、
三浦文彰(V)、田村 響(P)

『鏡の中の鏡』(世界初演作)
振付:パトリック・ド・パナ
音楽:アルヴォ・ペルト
出演:セシモン・チュージン、木本全優
三浦文彰(V)、田村 響(P)

『タイスの瞑想曲』「マ・バヴロワ」より
振付:ローラン・ブティ 音楽:ジュール・マスネ
出演:オルガ・スミルノフ、セシモン・チュージン
三浦文彰(V)、田村 響(P)

『白鳥の湖』より第1幕のヴァリエーション
振付:ルドルフ・スレエフ
音楽:P.J.チャイコフスキー
出演:木本全優、
三浦文彰(V)、田村 響(P)

ニコロ・パガニーニ「ネル・コル・ビウ変奏曲」演奏:三浦文彰(V)

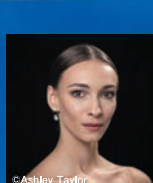
モーリス・ラヴェル「ツイガース」演奏:三浦文彰(V)、田村 響(P)

フレデリック・ショパン「ノクターン第20番(遺作)」『華麗なる大円舞曲』
演奏:田村 響(P)

Dancer ダンサー



©Ashley Taylor
マニユエル・ルグリ
ウィーン国立バレエ団芸術監督



©Ashley Taylor
オルガ・スミルノフ
ボリショイ・バレエ プリンシパル



©Ashley Taylor
セシモン・チュージン
ボリショイ・バレエ プリンシパル



©Ashley Taylor
木本全優
ウィーン国立バレエ団プリンシパル

Musician 音楽家



©Yuji Hori
三浦文彰
ヴァイオリン



©武蔵章
田村 響
ピアノ



滝澤志野
ピアノ/ウィーン国立バレエ団専属ピアニスト

日本で初披露。関西出身でルグリの秘蔵っ子、
ウィーン国立バレエ団プリンシパルの木本全優はル
グリ直伝のヌレエフ版『白鳥の湖』より第1幕の
ヴァリエーションを「美しい!」とルグリが絶賛す
る木本の王子は見逃せない。また木本はボリ
ショイのトップダンサー、セシモン・チュージンと
新作『鏡の中の鏡(仮)』を世界初披露する。アル
ヴォ・ペルトの美しい音楽に乗って男性ダンサー二
人が惜しげもなく鍛え抜かれたバレエテクニック
で魅せる。
その他、ボリショイカップルの『タイスの瞑想
曲』やルグリのソロ『Moment』など、上演さ
れるすべてのバレエは三浦文彰(V)と田村響
(P)らの生演奏とともに上演される。三浦は大河
ドラマ「真田丸」のオープニングテーマ曲のヴァイ
オリンソロで日本中の話題をさらい、その後、ゲル

ギーエフが指揮するマリインスキー歌劇場管弦楽
団と共演するなど、活躍の幅を世界に広げている。
この公演では音楽家たちによるソロ演奏も
あり、一流のバレエと音楽を同時に味わえる贅沢
な内容になっている。コンサートホールという極上
の音響環境での本公演。ダンサーの息づかいが
ホール中に響き渡るのも、聴き逃したくない。



©Yuji Hori

2019年 3/11 (月) 19:00 開演 18:15 開場

料金(全席指定・税込) S席 12,000円/A席 8,000円/SS席 16,000円

※5歳以上入場可 ※開演後の入場はお待ちいただく場合があります。 ※上演時間:約2時間/途中休憩あり

チケット
販売窓口

ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(10:00~18:00 火曜休)

チケット発売中 特設サイト <http://danceconcert.jp/>

お問合せ キョードーインフォメーション 0570-200-888 (10:00~18:00)

主催 8オンテレ/キョードーマネージメントシステムズ

企画・制作 愛知県芸術劇場 www.arttheatre.jp 企画協力 ベルチェ・アソシエイツ

出演者・演目は12月4日現在のものです。

やむを得ない事情により変更となる場合がありますが、その場合もチケットの払い戻しは致しかねます。